

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)乙第 15 号	氏名	谷川 輝美
学位審査委員	主 査 吉浦 孝一郎 副 査 下川 功 副 査 森内 浩幸		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、18トリソミー患児の生存期間の長さに相関する超音波検査所見、すなわち生存期間を予測できる超音波検査所見の同定を目的としたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>1987年10月から2004年7月までの期間で、確実に転帰を追跡できる24例の18トリソミー患児を対象として、生存期間により3群（1か月未満、1～12か月、12か月以上）に分類した後に、それぞれの群間の差を検討したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、超音波所見において重度の羊水過多（羊水深度 <math>\geq 120</math> mm）、胎児胃内の羊水像の存在、および重度の心奇形の有無が各群で差があることを見いだしており、それらの所見が生存期間の予測因子として推定された。それら超音波所見は18トリソミー患児の治療方針決定過程への応用や、今後の出産に際してカウンセリング時に有用であると考えられる。また、さらなる予後決定因子の同定も期待できる。</p> <p>以上のように本論文は出生前の超音波検査の有用性に関する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			